

特集

湖と、人と、まちが漕ぎ出す

聖地が紡いだ、天皇杯10連覇の航跡

久々子湖の静寂を破り、湖面に響く一糸乱れぬオール之音。
それは、絶対王者だけが奏でる勝利のシンフォニー。
前人未踏の国スボ競技別天皇杯10連覇は、いかにして成し遂げられたのか。
これは単なるスポーツの記録ではない。
半世紀の時をかけ、このまちのDNAに刻み込まれた情熱と絆の物語。
さあ、最強の源流へ。
その魂の航跡を、目撃せよ――。

わたしの夢、語ります

山路 ^{ひな}陽菜 さん 美浜東小学校 6年 (太田)

自分だけの夢

私の将来の夢は、まだ決まっていないけれど、人に優しく、どんなことにも笑顔で頑張れる人になりたいです。そのように思ったのは、保育士さんや店の店員さん等、さまざまな職場で働く人たちを見てきて、優しく笑顔で頑張っている姿に憧れたからです。

その中で、特に注目したのは、お店の店員の方たちです。いつでも笑顔で優しく接客する姿や、高齢者を気遣って重たい荷物を車まで運ぶ姿を見て、少し興味を持ち、こんな人になりたいと思いました。

今、自分にできることを考えてみると、まず勉強や習い事を頑張ること、誰に対しても優しく接することだと思いました。私のことから、一生懸命チャレンジし、になりたい自分になれるように頑張ります。



CONTENTS 目次 広報みはま2026年1月号

- 2 新年のご挨拶
- 4 わたしの夢、語ります／表紙の写真／目次
- 5 特集 湖と、人と、まちが漕ぎ出す
—— 聖地が紡いだ、天皇杯10連覇の航跡
- 14 まちウォッチング
第45回美浜町子ども会卓球大会 / 人権のつどい2025 他
- 16 住民税申告と所得税の確定申告は
2月16日から3月16日まで
- 17 みはまのまなび通信 Vol.7
- 18 情報BOX
道路の除雪作業にご協力ください / 美浜町新春のつどいを開催します 他
- 21 美浜発電所の状況について
- 22 すこやか放送局
- 23 ふるさと昔よもやま話164／文芸欄
- 24 ハートフル広場
はじめてバスデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
- 26 くらしのカレンダー

- 表紙の写真 -



みずうみ保育園のくじら組の子どもたちです。

今年の干支にちなみ、午の顔のついたしめ縄を手に持ち、「あけましておめでとう」と新年のあいさつをしてくれました。

子どもたちが、新年も笑顔と元気に満ちた日々を送り、すくすくと成長していくことを楽しみにしています。

ローイングの聖地のはじまり

全国からローイングの聖地として注目されている美浜町。その始まりは、半世紀以上前に開催された一つの大会にさかのぼります。

◆第23回国民体育大会の開催

町とローイング競技の関係の始まりは、昭和43年9月に福井県で開催された「第23回国民体育大会」にさかのぼります。

同大会のローイング競技は、県の会場地選考委員会で美浜町が選ばれました。会場となった久々子湖は、漕艇場として自然環境に恵まれていましたが、国体コースとして認定を受ける必要があり、会場の整備等が必要でした。

このため、町は受入準備を整えるべく、昭和40年に「美浜町国体準備委員会」を立ち上げ、行政と町民が一丸となって整備を行い、大会当日を迎えました。

開始式では、当時の美浜町長で福井県漕艇協会長（現在の福井県ローイング協会長）だった綿田捨三

氏が「漕艇競技大会が水光るわが久々子湖で行われますことは美浜町民の最も光栄とし、喜びに堪えない。全国各地からお集りの方々に、1万3千町民心からご歓迎申し上げる」と歓迎のことばを述べ、計4日間にわたった競技を成功裏に終えました。

同大会まで福井県には、一般男子（現在の成年男子）のナツクルフォアクルー（4人漕ぎクルー）がありませんでしたが、開催地としての責務と町でのローイング競技の普及を願い、町役場職員が中心となり、美浜町漕艇クルーが結成され、同種目に出場しました。

◆部活動・実業団の創設

昭和44年4月に、県立美方高校が開校すると同時に漕艇部が創設され、昭和61年には、ローイング競技を町技としてさらに盛り上げていこうという町の要請を受けた美浜中学校がボート部を創設しました。

さらに、昭和62年には、優秀な選手の県外流出を防ぎ、国民体育大会の成年男子強化等を目的として県漕艇協会の要請を受けた関西電力が美浜漕艇部を創設しました。

◆各種大会での成績と

町技への道

昭和51年に佐賀県で開催された第31回国民体育大会で、着実に



美浜町漕艇クルーとして第23回国民体育大会に出場した福井県ローイング協会
よしろう
副会長 田邊 義郎 さん
(久々子)

国体に出場したことが ボート人生の原点に

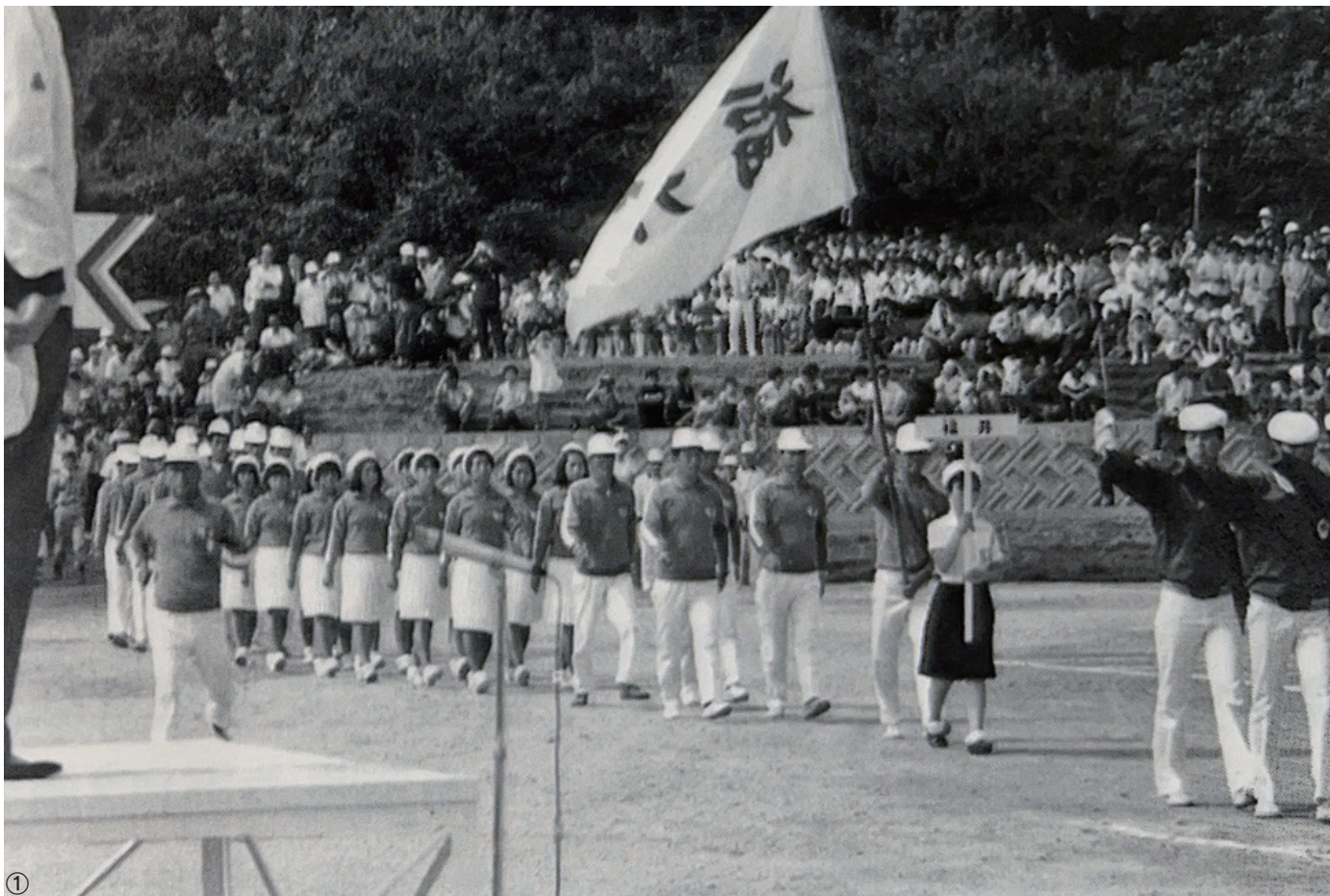
昭和43年の福井国体まで1年弱、急遽結成された美浜町漕艇クルーの一員として、ローイング競技に出場しました。

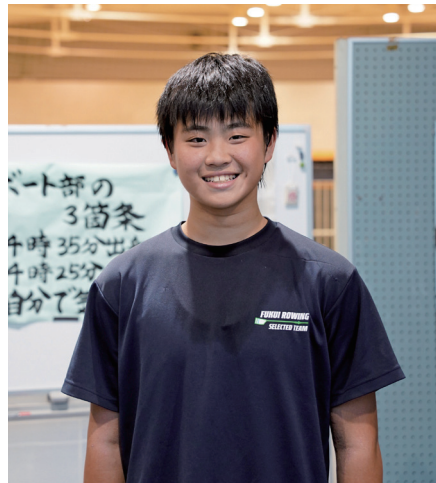
当時、西郷中学校に赴任された中江多津子（旧姓）教諭の指導の下、早瀬の浄妙寺で合宿を行いながら、朝日レガッタ等のレースを経験しました。しかし、にわか仕立てのクルーであり、本番では結果を残せずに終わりました。また、翌年の県内予選では小浜のクルーに破れ、残念ながらクルーは解散しましたが、当時の教育委員会職員の松井隆治氏から強い勧めもあり、松井監督と2人で競技を続けました。

その後、役場職員を中心に、美浜ローイングクラブを立ち上げ、レースや仲間意識を楽しみ、多くの仲間が継続して現在の競技運営に関わってくれていることや、10月の国民スポーツ大会では、競技別天皇杯10連覇を見届けることができたことは、大きな喜びでした。昭和43年の福井国体に出場したことが、私のボート人生の原点であることは間違いありません。



①第23回国民体育大会ローイング競技開始式（旧北小学校グラウンド・昭和43年）
②第23回国民体育大会ローイング競技に出場した美浜町漕艇クルー（早瀬）
③第1回美浜町民レガッタ出艇棧橋（早瀬）
④第1回美浜町民レガッタ開会式（中央公民館・昭和63年）





美浜中学校ボート部 男子キャプテン
はると
2年 石場 悠斗 さん（菅浜）

僕たちが強くなれるのは、 先生の熱い指導があるから

体験入部でエルゴメーターを漕いだことが楽しくてボート部に入部しました。県内の中学校でボート部があるのは、美浜中学校だけなので、ここでボートを漕げることがすごく嬉しいです。

僕たち美浜中学校ボート部が毎年強くなれるのは、久々子湖で練習ができることも一つですが、僕たちのことを考え、熱い指導をしてくれる顧問の先生のおかげだと思っています。これからも先生のご指導の下、各部員がレースを意識した練習に取り組み、夏の全中で男女総合優勝を目指します。



美浜中学校ボート部 女子キャプテン
ふうあ
2年 岡本 楓彩 さん（佐田）

ボート部に所属して強くなりました

ローイング選手である兄の影響で、私も漕ぎたいと興味を持ち、ボート部に入部しました。部活での練習やレースはとてもハードですが、やり遂げた時や漕ぎ切った時の達成感がすごいです。

ボート部に入って、やり遂げる力や誰にも負けないと思う強いメンタルが鍛えられ、新人戦でも最後まで漕ぎ抜き、優勝することができました。これからも、優勝を目指し、悔いが残らない最後まで漕ぎ切るレースができるよう、頑張りたいです。



ローイングを通して自分のやりたいことを

本校のボート部では、勝ち負けよりもローイングを楽しむこと、つらい時でも仲間と支え合って最後までやり遂げることを大切にしています。また、部活動は普段の学校生活をきちんと送ってこそ活動です。やるべきことはしっかりやる、地域の方々や町、久々子湖と一緒に練習をしている高校のボート部関係者等多くの人に支えられていること等選手に伝え、地域の方々から応援してもらえる人になれるように挨拶や礼儀等の指導にも力を入

れています。

生徒たちには、ローイングを通して、心身を鍛えることはもちろん、自分がやりたいことに対して受け身にならずに積極的にチャレンジし、自分が目指す目標を達成してもらいたいと思っています。そして、生徒たちの思いに対して背中を押すことができるようなサポートをし、達成する喜びを味わえるように今後も指導を行っていきたいと思っています。



美浜中学校ボート部
ひとふみ
顧問 東田 仁文 教諭



①湖上練習前に技術動作を確認
②練習前後は生徒自ら、船の整備
③湖で練習ができない日は、校内にあるローイングマシンで体と心を鍛える④細かな動作まで確認してローイング⑤第43回全日本中学選手権競漕大会で優勝した美浜中学校ボート部



◆美浜中学校ボート部の航跡

美浜中学校のボート部が創設されたのは昭和61年5月。町技であるローイング競技にジュニア期から親しむ環境づくりや同競技を通じた町の活性化を目的に創設されました。

創設翌年から全国中学選手権競漕大会に出場し、これまで男女ともに幾度となく総合優勝を果たす等、輝かしい成績を収めています。

特に、平成11年からは、水上で艇を動かす感覚の優れた選手を育成することが高校でのスムーズな競技継続につながるという高校指導者の助言の下、シングルスカルでのトレーニングが中心の練習スタイルを確立し、平成12・13年の全国中学選手権

競漕大会では、小柄な選手がシングルスカルで優勝を果たしています。

この頃から生徒たちは、1漕ぎ1漕ぎを大切にして競技に取り組むことを意味する「一本でより遠くへ」を合言葉に久々子湖で練習を重ね、時には中学生離れしたしなやかで力強いローイングで全国制覇を果たす等、全国に美浜中学校の名を轟かせました。

美浜中学校ボート部では、楽しくボートを漕ぐことの大切さや同競技を通じた人間育成に重きを置いた指導を発足当初から脈々と培い、高校進学後も同競技を続け活躍する選手を多く輩出しています。

受け継がれる伝統と合言葉
一本でより遠くへ

ローイング競技が町技として根付いた原動力の一つに地元学生の活躍があります。特に、県内の中学校で唯一ボート部を有する美浜中学校は、町内出身選手の多くがローイング競技に取り組む礎となっています。



- ①「Attention! Go!」の発艇号令で勢いよく飛び出すクルー（第10回・平成9年）
 ②見事入賞し、メダルをかけてもらう選手たち（第3回・平成2年）
 ③接戦の中盤、互いに譲らない各クルー（第29回・平成28年）
 ④30回目の開催を記念し、記念モニュメントを設置（第30回・平成29年）
 ⑤波で荒れるコースを懸命に漕ぐ選手たち（第19回・平成18年）
 ⑥息を合わせてボートを漕ぐ選手たち（第10回・平成9年）

未来に向かって

Attention Go!!

今年で38回を数えた美浜町民レガッタは、ローイング競技を通して地域と地域、地域と人、そして人と人とのつながりを強くする町の一大イベントへと成長しました。

◆競技人口の拡大と

地域の活性化

美浜町民レガッタは、ローイング競技を多くの町民に親しんでもらい、競技人口の拡大や町民同士の交流を図ることを目的として昭和63年に第1回大会が開催されました。

久々子湖では、昭和43年に開催された第23回国民体育大会以降、町民レガッタが開催されるまで、福井レガッタ等のさまざまな大会が開催されてきました。さらに、美浜中学校や美方高校のボート部の練習拠点と

なる等「ローイングの聖地」として認知されつつありましたが、町民の間ではローイング競技はボート部に所属する競技選手が行う特殊な競技と思われていました。

そこで、当時の美浜町長綿田光雄氏は、ローイング競技を町民の皆さんに親しんでもらい、全員が楽しめるイベントを開催したいと検討を重ね、第23回国民体育大会開催20周年を迎えた昭和63年10月に第1回大会の開催に至りました。

同大会では、各集落や町内の事業所から125クルー約650人の参加があり、ガッツマンやジェントルマン、レディー、ミックス、ファミリーの5種目で行われました。その後、平成18年には交流の部等の新たな部門を設けることで、年々参加クルーが増え、平成29年の第30回記念大会では、312クルー約1,800人が参加する国内最大級の市民参加型レガッタとなりました。

町民レガッタの開催により、町民にとつてローイング競技がより身近なものとなり、競技人口や交流人口の拡大等、大きな役割を果たしています。

- ①②レース間は、地域や職場の仲間たちと交流を深める楽しいひと時に（第24回・平成23年）
 ③朝日を受けながら、レースに臨む各クルー（第27回・平成26年）
 ④仮装してレースに出場し、大会を盛り上げる（第18回・平成17年）
 ⑤レース中に遊覧船が近くを走ることも（第20回・平成19年）

- ⑥完漕し、爽やかな笑顔を見せる選手たち（第25回・平成24年）
 ⑦レース中の出艇桟橋前は、大混雑（第38回・令和7年）
 ⑧応援してくれた観客に手を振る選手たち（第21回・平成20年）
 ⑨陸上から声援を送る観客たち（第25回・平成24年）



町に根付いたローイング文化を まちづくり・地域の活性化へ

昭和43年の福井国体でローイング競技が久々子湖で初めて開催され、57年が経ちました。今日まで、町技としてローイング文化が町に根付いたのは、競技の普及にご尽力いただいた関係者の皆さん、惜しみない努力を費やし、数々の功績を残された選手や指導者の皆さん、そして、町民の皆さんのご理解、ご協力があったからこそと、深く感謝いたします。

昭和63年から始まった美浜町民レガッタも、多くの町民の皆さんにご参加いただき、「ローイングの町美浜」を象徴する日本最大級の市民参加型レガッタとなりました。大会を通じて、広く町民の皆さんにローイングに親しんでもらうことで、競技の普及や地域の活性化につながっています。そして、紡いできたローイング文化に花が咲き、第79回国民スポーツ大会では、多くの本町関係選手が活躍し、天皇杯10連覇という前人未踏の金字塔を打ち立てることができました。この歴史的偉業は、選手たちや指導者の努力・活躍はもちろん、学校や企業、町民の皆さんが一丸となって成し遂げた成果だと考えています。

現在、関電ローイングセンターみはま（県立久々子湖漕艇場）では、国内最高峰の競技環境の整備に向け2,000mコースの延伸工事が進められており、町では完成を見据え、全日本や国際級大会を開催したいと考えています。町としては、引き続きローイング競技を通じて、交流人口の拡大や地域づくり・「ローイングの町美浜」のまちづくりに取り組んでいく所存でありますので、これまで以上のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

美浜町長 戸嶋 秀樹



①第79回国民スポーツ大会で天皇杯10連覇、皇后杯8連覇を達成した福井県選抜チーム（滋賀県・令和7年）②第73回国民体育大会で天皇杯5連覇、皇后杯3連覇を達成した福井県選抜チーム（福井県・平成30年）③第77回国民体育大会で天皇杯7連覇、皇后杯5連覇を達成した福井県選抜チーム（栃木県・令和4年）④第79回国民スポーツ大会ローイング競技の少年女子舵手付きクオドルプルで優勝した福井県選抜クルー⑤第73回国民体育大会ローイング競技の成年男子舵手つきフォアで優勝した福井県選抜クルー（福井県・平成30年）



前人未踏の偉業

競技別天皇杯10連覇

令和7年10月に、滋賀県で行われた第79回国民スポーツ大会ローイング競技で、福井県は競技別天皇杯（男女総合）で平成26年の長崎国体から続く10連覇、皇后杯（女子総合）で平成28年の岩手国体から続く8連覇を達成しました。同競技では、町内在住者や出身者の活躍が目覚ましく、偉業達成に大きく貢献しています。

◆競技別天皇杯・皇后杯の 決定方法

国民スポーツ大会ローイング競技の総合成績は、男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）に分けられ、競技得点と参加得点の合計が多い都道府県順に順位が決められます。

競技得点は、種目別に配分が異なり、選手が1人で出場するシングルスカルは、1位が8点に対し、コックスを合わせて5人の選手が出場する舵手つきフォアと舵手つきクオドルプルは1位に40点が与えられます。このようにして獲得した競技

得点に、ブロック大会を含む本大会に参加した都道府県に与えられる参加得点10点を加算した合計得点で争われています。天皇杯と皇后杯を獲得するには、得点配分の高い種目で上位入賞することが重要となります。

福井県は、ほとんどの種目で上位入賞を収め、特に舵手つきフォアと舵手つきクオドルプルでは、中学時代から築き上げた水上で艇を動かす個々の感覚を結集したチームワークの良い漕ぎで、多くの得点を獲得しています。

ー総合成績決定方法ー

天皇杯 対象種別	皇后杯 対象種別	順位 種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
			1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
成年男子 成年女子 少年男子 少年女子	成年女子 少年女子	舵手つきフォア 舵手つきクオドルプル	40	35	30	25	20	15	10	5
		ダブルスカル	24	21	18	15	12	9	6	3
		シングルスカル	8	7	6	5	4	3	2	1

◆全国の頂点に 立ち続けられる理由

ローイング競技で福井県勢が頂点に立ち続けられる理由は、久々子湖での練習環境と国スポで勝つために行われる高校等の垣根を超えたチーム編成にあります。

県内すべての高校ボート部が、久々子湖を拠点に活動し、互いに連携を取り合うことで、競技レベルの底上げが図られ、強い選抜チームが持続し、成績を残し続けることができる要因の1つとなっています。

また、2つ目の要因として県勢クルーは、選手個人の身体能力や年間を通して行われるシングルスカルタイム計測結果等を基に、各チームの指導者がミーティングを重ね、選ばれた選抜クルーであることです。少年の部（高校生）では、国スポ終了後から翌年の国スポに向け県内すべての高校ボート部が集まり、合同でシングルスカルタイム計測や計画的な合宿、選考レースを経て選手を選抜し、

強化を図っています。

平成初期までは、単独校の弱点を他校の有力選手で補強する形でクルーが生まれ、短期間の猛練習で国スポに出場していました。しかし、人口の少ない福井県が県外の強豪に勝つため、チームの垣根を超えた選抜クルーの編成を始め、各校の指導者たちが練習方法を公開し、指導等の方向性を統一して選手の育成、強化を行い、県全体のレベルアップを図っています。